

ベリス・メルセス宣教修道女会

100年

Celebration of the centennial of the first foundations



100.mmberriz.org



いのちを与えるために国境を超える

「あがないの霊性が私たちを宣教女に変えた」

マルガリタ・M・ロペス・マトウラナ

何を祝うのか？

あまりにも予期せぬ、驚くべき出来事があります。信仰の視点から見れば、それらは、私たちの生活や歴史の中に絶えず新たなものを生み出す神の霊、すなわちルアのおかげでこそ可能になったのだという確信を抱かせるのです。

ベリス・メルセス宣教ファミリーは、1541年以来ビスカヤの山々にひっそりと佇んでいたベリスの「ベラ・クルス」メルセス修道院が、わずか数年の短期間のうちに、今日では五大大陸に拠点を置く宣教修道会へと変貌を遂げたその過程において、この動きを認識しています。

その動きは、マルガリタ・マリア・ロペス・デ・マトウラナの心の中で、少しずつ芽生え始めました。彼女は観想会修道女としての初期の頃、「主が私に託された、すなわち全世界の人々」（1912年）にイエスを知ってもらいたいという願いを強く抱いていたのです。その願いは、遠く離れた地から訪れた修道者たちとの出会い、そして20世紀初頭の教会において新たな活力を得つつあった宣教運動の温もりの中で、種のように芽生えていきました。

マルガリータの心の奥底から湧き出たその活力は、ベリスの寄宿学校の生徒たちへと溢れ出し、彼女は全力を尽くして生徒たちの教育に打ち込みました。宣教への情熱が教室や廊下に満ち溢れ、スペイン初の青年宣教団体「メルセダリア宣教青年会」が誕生したのです。そしてそこから、宣教への衝動、すなわち聖霊の働きが、時のしるしの中に神の声

を聞き取ることを知っていたあの女性たちの共同体の心に届きます。こうして、召命への確信がもたらす大胆さをもって、彼女たちは何世紀にもわたる禁入制を打ち破り、内外の柵を開くことができたのです。それは、まだイエスを知らない人々に、イエスの福音を伝えたいという願いに駆り立てられてのことでした。

キリストとその贖いの愛に目を向け、「今この時、教会が贖おうとしている奴隷たち」とは誰なのかを見極めながら、マルガリタ・マリアはベリスの共同体と共に、解放をもたらすメルセス会のカリスマを刷新し、全世界、すなわち「神の大きな家族」を包み込む新たな地平を切り拓きました。

数ヶ月前に、奉獻会省および宣教省から、禁入制を解き、宣教地で修道院を設立することを承認する承認を受け取った後：

- 1926年9月19日、最初の6人の宣教女たちがベリスを出発し、**中国・蕪湖**へと向かい、11月5日に到着しました。閉ざされていた修道院の禁入制の門は、神の愛の普遍性を生き、表現するために、ついに開かれたのです。
- 一行が出発してまもなく、ベリスに残った者たちは新たな宣教旅行の準備に取り掛かりました。この旅は1927年10月30日にベリスを出発し、1928年3月4日に到着した**サイパン（マリアナ諸島）**での宣教拠点の設立へとつながります。

- 1928年8月5日、ベリスは、さらに第3次宣教団を見送り、9月23日に東京（日本）に到着し、11月11日にはポナペ（カロリン諸島）に到着します。

100年経った今日、MMBファミリー（修道女と信徒）は、この歴史を受け継ぎ、その起源を記念しています。私たちを駆り立てるのは、マルガリタ・マリアと初期の修道女たちを「命を与えるために国境を超える」よう導いた聖霊の活力を、今も受けとめ続け、今日の私たちの中にそれを再現し、この歴史を未来へと紡いでいきたいという願いです。

ベリスの深くあわれみに満ちた観想的なルーツから、その宣教的変革の大胆さと活力は育まれ、今日、私たちをもまた、同様に矛盾に満ち、挑戦的な世界へと、産みの苦しみにうめく被造物へと、そして新しい世代へと歩み出すように駆り立てています。

この祝いの意味

「最初の修道院設立100周年」（2026年～2028年）の記念行事を通じて、私たちは以下のことを願っています：

私たちの歴史に感謝する、それは、常に創造し、刷新し、新たな道を開き、広がりをもたらし、外へ踏み出し、さらに先へ進み、恐れを乗り越え、リスクを冒し、いのちを捧げるよう招いてくださる神の御業によって動かされた、私たちの起源に宿る活力を指す。

- マルガリタ・マリアが、ベリスの共同体とともに受け入れた聖霊の新たな働きに対して示した、開いた心と忠実さに感謝します。それによって、想像もできなかった夢が実現したのです。

- 「神の国のために働き、苦難に耐える」という願いに駆られ、**遠い地へと旅立った姉妹たちの勇気**に感謝します。彼女たちは、戦争、亡命、迫害、投獄、経済的苦難など、数多くの困難に立ち向かわなければなりませんでした。

- そして、この100年にわたり五大陸で紡がれてきた**宣教の歩み**に感謝します。

この歴史を読み返し、心に深く刻むことで、私たちは大小さまざまな恵みを喜び、神や他者、そして今日、私たちと共に生き、その文化の多様性を分かち合っている人々から受けた多くの恵みに報いるよう促されるのです。

私たちの人生に意味を与える「宝」、すなわち私たちの宣教の召命の基盤を、**新たに創造する**。それは、第17回総会の文書『イエスの神によって新たに創り直される』が私たちに投げかける招き、「あなたの中にある神の賜物を再び燃え上がらせなさい」（2テモテ1:6）を受け入れ、ルアが私たちの内に吹き込み、私たちの炎をより強く燃え上がらせるようにすることである（参照：110項）。

この祝いが、MMBファミリーの中に、下記を再創造しますように

- 私たちの最大の宝である**イエスの体験**を通じて、イエスにさらに深く根を下ろし、イエスの選びや生き方、在り方に倣って変えられていくこと。
- 私たちを「外へ」と駆り立て、イエスの福音をすべての民族、すべての人々（とりわけ最も弱い立場にある人々）、そしてすべての被造物と分かち合うように促す**宣教の精神**。それは、意味の提示、寄り添い、信仰、慈し

み、もてなし、正義、異文化との対話と出会い、思いやり、そして「解放」という形をとって現れます...

- ベリスの共同体が、人類の叫びの中に現れる神の望みへと耳を傾けることから、心を一つに結ばれるに至った**交わりの体験**。
- マルガリタ・マリアが「修道会全体に深く染み渡る」ことを望んだ**メルセス会の召命**は、特に「**あがないの第四誓願**」に表れており、これが私たちの生活と宣教使命の証となるべきものです。すなわち、他の人々が命を得られるように、自らの命を捧げること。



授かったカリスマを分かち合う。私たちは、宝を見つけた喜びを味わい、それを分かち合うよう強く促されています。そうすることで、イエスとその福音が、人々、新しい世代、民族、そして地球に、今も触れ、意味を与え、解放への道を切り開いていくのです。今日もまた、私たちは「命を与えるために」国境を超え続けたいと願っています。

そのためには、私たちの創造性をさらに研ぎ澄まさなければなりません。そして何よりも、授かった賜物を自らの生き方に体現し、それらが人類と被造物を豊かに実り続けるようにしなければなりません。人類と被造物は時に絶望に打ちひしがれることもあります。そこには常にルアが宿っており、燃え上がる火花を呼び覚まし、温もりと安らぎ、優しさを与え、交わりの中で光を放つのです。

この時が、MMBファミリー全員にとって、真に恵みあふれる時となりますように。

「私は望む、すべての国、すべての民、地の果てまで、
十字架上に消えていかれたイエスの姿を、輝かし、刻印することを。」

(マルガリタ・M・ロペス・デ・マトゥラナ、1934年聖年)

ベリス・メルセス 宣教修道女会

100年

いのちを与
えるために
国境を超える